

EANET 政策決定者向け報告書（第3版）（概要）

1. 政策決定者向け報告書の背景

- 東アジア酸性雨モニタリングネットワーク (Acid Deposition Monitoring Network in East Asia (EANET)) は、酸性雨及びその他の関連する大気汚染物質に係る地域協力を推進するために 2001 年に本格稼働を開始した科学的なイニシアチブである。
- 本報告書は、科学的に重要な情報、及び EANET の活動成果や今後の方向性等を EANET 参加国の政策決定者及びその他の関係団体に提供するために定期的に発行している（2005 年に第 1 版、2009 年に第 2 版を発行）。

2. 報告書（第3版）の概要

- アジアにおける急速な経済発展の結果、近年、大気環境は、特に悪化してきており、今後、40 年間に亘って更に悪化の傾向にあるものと推測される。
- 都市域では、過去 10 年間の PM₁₀ のレベルが、世界保健機関 (WHO) の年間ガイドライン値を著しく超過しており、より深刻である。
- 国連の予測によれば、アジアの総人口は、2050 年までに 50 億人を超過するとみられ、このうちの 65% が都市域に住むと考えられており、これは早期死亡の危険のある人口数の増加をもたらすことになると考えられる。
- アジアには、地域の大気汚染を削減するための多くのイニシアチブがある。これらのイニシアチブの間の戦略的な連携の強化が重要である。
- EANET は、この十数年間、多くの成果を得てきたが、現在のアジアの大気環境を鑑みると、EANET は、アジアにおけるより清浄な大気環境、持続可能な発展に貢献するため、より大きな役割を担うことが期待されている。
- そのため、現在は、EANET の活動範囲の拡大に関する検討を行うのに適切な時期であり、地域の他のイニシアチブと力を合わせつつ、活動を拡大していくこととしている。